

デーヴォ ガイド



2024.5.6-12

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディボーションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?)1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

13:25 そこを人々が通りかかり、道に放り出されている死体と、その死体のそばに立っている獅子を見た。彼らは、あの年老いた預言者の住んでいる町に行き、このことを話した。

13:26 その人を途中から連れ帰ったあの預言者は、それを聞いて言った。「それは、【主】のことばに背いた神の人だ。【主】が彼に告げたことばどおりに、【主】が彼を獅子に渡され、獅子が彼を裂いて殺したのだ。」

13:27 そして、息子たちに「ろばに鞍を置いてくれ」と言ったので、彼らは鞍を置いた。

13:28 彼は出かけて行って、道に放り出されている死体と、その死体のそばに立っているろばと獅子を見つけた。獅子はその死体を食わず、ろばを引き裂いてもいなかった。

13:29 そこで、年老いた預言者は神の人の遺体を取り上げ、それをろばに乗せて自分の町に持ち帰り、悼み悲しんで葬った。

13:30 彼が遺体を自分の墓に納めると、皆はその人のために、「ああ、わが兄弟」と言って悼み悲しんだ。

13:31 彼はその人を葬った後、息子たちに言った。「私が死んだら、あの神の人を葬った墓に私を葬り、あの人の骨のそばに私の骨を納めてくれ。」

13:32 あの人が【主】のことばにしたがって、ベテルにある祭壇とサマリアの町々にあるすべての高き所の宮に向かって叫んだことばは、必ず成就するからだ。」

13:33 このことがあった後も、ヤロブアムは悪い道から立ち返ることをせず、引き続き—

般の民の中から高き所の祭司たちを任命し、だれでも志願する者を任職して高き所の祭司にした。

13:34 このことは、ヤロブアムの家の罪となり、ついには大地の面から根絶やしにされることとなった。

「年寄りの預言者」は自分に原因があることから、「神の人」の死に対して同情します。また「あの人が...、叫んだことばは必ず成就する」と、今は確信をもって語っています。これは主のさばきを目の当たりにしたからこそです。

「主はこの年老いた預言者」をもさばくべきではないかと考えてしまいますが、主のさばきには目的があります。主の預言の厳かさ、特にヤロブアムによってなされた北王国の反逆を告発するために、預言者が遣わされたのです。彼は自分の使命の尊さと、与えられた権威とを、もっと大切にすべきでした。

しかし最後に「年老いた預言者」は「(みこころは)必ず成就する」と、北王国の滅びを預言しました。またそれでもヤロブアムは「立ち返ることをせず」と、彼の罪はますます明らかになりました。この「神の人は」さばかれることによって、その使命を果たしたということにもなります。また、今は心が変わった「年寄りの預言者」によって同情と信頼が表されました。彼の名誉は保たれたといえるでしょう。

初めは忠実でありながら、後に主に背くという点では、ダビデやソロモンと同じです。彼が永遠にさばかれるとは言い切れません。主のあわれみがそこにあります。

最後まで主に忠実でありましょう。私たちに与えられている使命の尊さをしっかりと覚えましょう。失敗したなら主のあわれみを求めましょう。十字架に赦しと、新しい出発もあるのです。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？



14:1 このころ、ヤロブアムの子アビヤが病気になるので、

14:2 ヤロブアムは妻に言った。「さあ、変装し、ヤロブアムの妻だと分らないようにしてシロへ行ってくれ。そこには、私がこの民の王となることを私に告げた預言者アヒヤがいる。

14:3 パン十個と菓子数個、それに蜜の瓶を持って彼のところへ行ってくれ。彼は子どもがどうなるか教えてくれるだろう。」

14:4 ヤロブアムの妻は言われたとおりにして、シロへ出かけ、アヒヤの家に行ったが、アヒヤは年をとって目がこぼれ、見ることができなかった。

14:5 しかし、【主】はアヒヤに言われた。「今、ヤロブアムの妻が来て、子どものことをあなたに尋ねようとしている。その子が病気だからだ。あなたは、これこれのことを彼女に告げなければならぬ。入って来るときには、彼女はほかの女のようなふりをしている。」

14:6 アヒヤは、戸口に入って来る彼女の足音を聞いて言った。「入りなさい、ヤロブアムの妻よ。なぜ、ほかの女のようなふりをしているのですか。私はあなたに厳しいことを伝えなければなりません。」

14:7 行って、ヤロブアムに言いなさい。イスラエルの神、【主】はこう言われる。『わたしは民の中からあなたを高く上げ、わたしの民イスラエルを治める君主とし、

14:8 ダビデの家から王国を引き裂いて、あなたに与えた。しかしあなたは、わたしのしもべダビデのようではなかった。ダビデはわた

しの命令を守り、心を尽くしてわたしに従い、ただ、わたしの目にかなうことだけを行った。

14:9 ところがあなたは、これまでのだれよりも悪いことをした。行って自分のためにほかの神々や鑄物の像を造り、わたしの怒りを引き起こし、わたしをあなたのうしろに捨て去った。

14:10 だから、見よ、わたしはヤロブアムの家にわざわいをもたらす。イスラエルの中の、ヤロブアムに属する小童から奴隷や自由な者に至るまで絶ち滅ぼし、人が糞を残らず焼き去るように、ヤロブアムの家の跡を除き去る。

14:11 ヤロブアムに属する者は、町で死ぬなら犬がこれを食らい、野で死ぬなら空の鳥がこれを食らう。』【主】が、こう言われたのです。

14:12 さあ、家に帰りなさい。あなたの足が町に入るとき、その子は死にます。

14:13 全イスラエルがその子のために悼み悲しんで葬るでしょう。ヤロブアムの家の者で墓に葬られるのは、彼だけです。ヤロブアムの家の中で、彼だけに、イスラエルの神、【主】のみこころにかなうことがあったからです。

14:14 【主】はご自分のためにイスラエルの上に一人の王を起こされます。彼はその日、いや、今にもヤロブアムの家を絶ち滅ぼします。

14:15 【主】はイスラエルを打って、水に揺らぐ葦のようにし、彼らの先祖に与えられたこの良い地の面からイスラエルを引き抜き、あの大河の向こうに散らされるでしょう。彼らがアシェラ像を造って【主】の怒

りを引き起こしたからです。

14:16 ヤロブアムが自分で犯した罪と、彼がイスラエルに犯させた罪のゆえに、主はイスラエルを捨てられるのです。」

14:17 ヤロブアムの妻は立ち去って、ティルツアに着いた。彼女が家の敷居をまたいだとき、その子は死んだ。

14:18 人々はその子を葬り、全イスラエルは彼のために悼み悲しんだ。【主】がそのしもべ、預言者アヒヤによって語られたことばのとおりであった。

14:19 ヤロブアムについてのその他の事柄、彼がいかに戦い、いかに治めたかは、『イスラエルの王の歴史誌』にまさしく記されている。

14:20 ヤロブアムが王であった期間は二十二年であった。彼は先祖とともに眠りにつき、その子ナダブが代わって王となった。

ヤロブアムの王位後期の様子です。彼は偶像を祭りつつも、実は主を信じているという姿勢で、それを知られたくないために、妃を変装させました。

この際、心は主を信じているというような言い訳は成り立ちません。彼の偶像に対する態度が、民に混乱と不信仰を与えたからです。

信じているように行動するのが、聖書のいう信仰です。私たちはどうでしょうか。

- ①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）
- ②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）
- ③生き方にどう適用しますか？（あなたの中の部分を主は扱おうとしておられますか）
- ④この世にあって何を実践しますか？

8日 水曜

列王 I

14:21 ユダではソロモンの子レハブアムが王になっていた。レハブアムは四十一歳で王となり、【主】がご自分の名を置くためにイスラエルの全部族の中から選ばれた都、エルサレムで十七年間、王であった。彼の母の名はナアマといい、アンモン人であった。

14:22 ユダの人々は【主】の目に悪であることを行い、彼らが犯した罪によって、その先祖たちが行ったすべてのこと以上に主のねたみを引き起こした。

14:23 彼らも、すべての高い丘の上や青々と茂るあらゆる木の下に、高き所や、石の柱や、アシェラ像を立てた。

14:24 この国には神殿男娼もいた。彼らは、【主】がイスラエルの子らの前から追い払われた異邦の民の、すべての忌み嫌うべき慣わしをまねて行っていた。

14:25 レハブアム王の第五年に、エジプトの王シシャクがエルサレムに攻め上って来て、

14:26 【主】の宮の財宝と王宮の財宝を奪い取った。彼は何もかも奪い取った。ソロモンが作った金の盾もすべて奪い取った。

14:27 レハブアム王は、その代わりに青銅の盾を作り、これを王宮の門を守る近衛兵の隊長の手に託した。

14:28 王が【主】の宮に入るたびに、近衛兵がこれを運び、また近衛兵の控え室に戻した。

14:29 レハブアムについてのその他の事柄、彼が行ったすべてのこと、それは『ユダの王の歴代誌』に確かに記されている。

14:30 レハブアムとヤロブアムの間には、いつも戦いがあった。

14:31 レハブアムは先祖とともに眠りにつき、



先祖とともにダビデの町に葬られた。彼の母の名はナアマといい、アンモン人であった。彼の子アビヤムが代わって王となった

北王国はイスラエルと呼ばれ、南王国はユダと呼ばれました。ヤロブアムは北王国すなわちイスラエルの王であり、レハブアムは南王国すなわちユダの王です。

レハブアムの罪によって国全体が偶像の影響を受けました。エジプトに攻められて、財宝が奪われたのも主からの懲らしめであると、歴代誌には明記してあります。「あなたがたがわたしを捨て去ったので、わたしもまたあなたがたを捨ててシシャクの手に渡した。」とは、歴代誌の主のことばです。主に立ち返ることが必要です。

不信仰ゆえ金の盾が奪われたのですが、レハブアムは見かけを取り繕うために、偽物を用いました。彼のみじめな様子が感じられます。

主に従わない者は、取り繕わなければならないということです。主に従って、それゆえに堂々と正直に生きてゆきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



9日 木曜

列王 I

15:1 ネバテの子ヤロバアムの第十八年に、アビヤムがユダの王となり、
15:2 エルサレムで三年間、王であった。彼の母の名はマアカといい、アブサロムの娘であった。
15:3 彼は、かつて自分の父が行ったあらゆる罪のうちを歩み、彼の心は父祖ダビデの心のように、彼の神、【主】と一つにはなっていなかった。
15:4 しかし、ダビデに免じて、彼の神、【主】は、彼のためにエルサレムに一つのともしびを与えて、彼の跡を継ぐ子を起こし、エルサレムを堅く立てられた。
15:5 それは、ダビデが【主】の目にかなうことを行い、ヒッタイト人ウリヤのこのほからは、一生の間、主が命じられたすべてのことからそれなかったからである。
15:6 レハバアムとヤロバアムの間には、彼の一生の間、戦いがあった。
15:7 アビヤムについてのその他の事柄、彼が行ったすべてのこと、それは『ユダの王の歴史』に確かに記されている。アビヤムとヤロバアムの間には戦いがあった。
15:8 アビヤムは先祖とともに眠りにつき、人々は彼をダビデの町に葬った。彼の子アサが代わって王となった。

ヤロバアムは北王国すなわちイスラエルの王です。彼の治世に、南王国ユダでは王が変わり、レハバアムからアビヤムになりました。

「彼は、かつて自分の父が行ったあらゆる罪のうちを歩み」とあります。彼の王位が3年しか続かなかったのはそこにあります。王になるということは



名誉であり、この世の成功者といえるでしょうが、主に従わない者には、その喜びも長くはありません。

また「レハバアムとヤロバアムの間には、彼の一生の間、戦いがあった。」、「アビヤムとヤロバアムの間には戦いがあった。」と、争いのことが重ねて記されています。不信仰な者には争いはつきものです。自分中心だからです。

一方、ダビデの信仰ゆえにアビヤムの「跡を継ぐ子を起こし、エルサレムを堅く立てられた。」とありますから、良き信仰は子孫を助けるということも、知っておくべきでしょう。

信仰と不信仰の結果はあらゆるところに影響するのです。全能の主に関することですから当然のことです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



10日 金曜

列王 I

15:9 イスラエルの王ヤロブアムの第二十年に、ユダの王アサが王となった。

15:10 彼はエルサレムで四十一年間、王であった。彼の母の名はマアカといい、アブサロムの娘であった。

15:11 アサは父祖ダビデのように、【主】の目にかなうことを行った。

15:12 彼は神殿男娼を国から追放し、先祖たちが造った偶像をことごとく取り除いた。

15:13 また、母マアカがアシェラのために憎むべき像を造ったので、彼女を皇太后の位から退けた。アサはその憎むべき像を切り倒し、これをキデロンの谷で焼いた。

15:14 高き所は取り除かれなかったが、アサの心は生涯、【主】とともにあり、全きものであった。

15:15 彼は、父が聖別した物と自分が聖別した物、銀、金、器を、【主】の宮に運び入れた。

15:16 アサとイスラエルの王バアシャの間には、彼らが生きている間、戦いがあった。

15:17 イスラエルの王バアシャはユダに上って来て、ラマを築き直し、ユダの王アサのもとにだれも出入りできないようにした。

15:18 アサは、【主】の宮の宝物倉と王宮の宝物倉に残っていた銀と金をことごとく取って、自分の家来たちの手に渡した。アサ王は、彼らをダマスコに住んでいたアラムの王、ヘズヨンの子タプリンモンの子ベン・ハダドのもとに遣わして言った。

15:19 「私の父とあなたの父上の間にあったように、私とあなたの間にも盟約を結びましょう。ご覧ください。私はあなたに銀と金



の贈り物をしました。どうか、イスラエルの王バアシャとの盟約を破棄して、彼が私のもとから離れ去るようにしてください。」

15:20 ベン・ハダドはアサ王の願いを聞き入れ、自分の配下の軍の高官たちをイスラエルの町々に差し向け、イオンと、ダンと、アベル・ベテ・マアカ、およびキネレテ全域とナフタリの全土を攻撃した。

15:21 バアシャはこれを聞くと、ラマを築き直すのを中止して、ティルツアにとどまった。

15:22 そこで、アサ王はユダ全土にもれなく布告し、バアシャが建築に用いたラマの石材と木材を運び出させた。アサ王は、これを用いてベニヤミンのゲバとミツパを建てた。

15:23 アサのその他のすべての事柄、すべての功績、彼が行ったすべてのことや彼が建てた町々のこと、それは『ユダの王の歴史』に確かに記されている。ただ、彼は年をとってから、両足とも病気になるまで。

15:24 アサは先祖とともに眠りにつき、先祖とともに父ダビデの町に葬られた。彼の子ヨシャファテが代わって王となった。

北王国イスラエルの王がヤロブアムであった間に、南王国ユダでは2回王が変わりました。主に従わなかったので、アビヤムの在位が3年という短期であったからです。

アサは「主の目にかなうこと」を行いました。母マアカが偶像に仕えていましたが、それも人情に流されずに聖別しました。もしも母だから許していたら、母もさばかれるところだったでしょう。彼は母を救ったのです。

彼は北王国のバシャ王に攻められたときに、神

様に頼らずに真っ先に他国との同盟を画策しました。これは不信仰ではありませんが、神様は彼の聖別政策に免じて、イスラエルを救ってくださいました。

人間は不信仰に陥ることがありますが、それでも今主に従うことに気づいたなら、それを行いましょ。主はその従いに報いてくださいます。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



11日 土曜

列王 I

15:25 ユダの王アサの第二年に、ヤロブアムの子ナダブがイスラエルの王となり、二年間イスラエルの王であった。

15:26 彼は【主】の目に悪であることを行い、彼の父の道に歩み、父がイスラエルに犯させた罪の道歩んだ。

15:27 イッサカルの家のアヒヤの子バアシャは、彼に謀反を企てた。バアシャはペリシテ人のギベトンで彼を討った。ナダブとイスラエル全軍はギベトンを攻め囲んでいたのである。

15:28 こうして、バアシャはユダの王アサの第三年にナダブを殺し、彼に代わって王となった。

15:29 彼は王となったとき、ヤロブアムの全家を討ち、ヤロブアムに属する息ある者を一人も残さず、根絶やしにした。【主】がそのしもべ、シロ人アヒヤを通して言われたことばのとおりであった。

15:30 これはヤロブアムが犯した罪のゆえ、またイスラエルに犯させた罪のゆえであり、彼が引き起こしたイスラエルの神、【主】の怒りによるものであった。

15:31 ナダブについてのその他の事柄、彼が行ったすべてのこと、それは『イスラエルの王の歴代誌』に確かに記されている。

15:32 アサとイスラエルの王バアシャの間には、彼らが生きている間、戦いがあった。

北王国イスラエルの王ヤロブアムは、ユダに対抗するために勝手に主への礼拝の場所と方法を作り出し、主の命令に背く祭儀を行ったために、主からその滅亡が宣言されました。そして結果は全くその通りのものでした。



彼の不信仰は子どもナダブに受け継がれ、王となっても「彼の父の道に歩み、父がイスラエルに犯させた罪の道歩んだ。」とあります。それで彼の在位は2年間だけでした。またその最後は悲惨なもので、謀反によって王位が奪われ、血族は皆殺しにされたのです。

ナダブの祖父であるヤロブアムは、自分の王位を守るために、人心をまとめる目的で勝手な祭儀を始めました。すなわち安心のために主に背くことを選んだのですが、その結果は逆で、安心どころか滅びを招きました。

多くの不信仰は、自分を守りたいという動機から来る場合が多いようです。しかし、本当の安心は主から来るのだということを忘れないようにしましょう。主の愛と真実を無視する生き方は、そのときには良く見えても、必ず破綻してしまうからです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



15:33 ユダの王アサの第三年に、アヒヤの子バアシャがティルツァで全イスラエルの王となった。治世は二十四年であった。

15:34 彼は【主】の目に悪であることを行い、ヤロブアムの道に歩み、ヤロブアムがイスラエルに犯させた罪の道に歩んだ。

16:1 そのとき、ハナニの子エファーに、バアシャに対する次のような【主】のことばがあった。

16:2 「わたしは、あなたをちりから引き上げ、わたしの民イスラエルの君主としたが、あなたはヤロブアムの道に歩み、わたしの民イスラエルに罪を犯させ、その罪によってわたしの怒りを引き起こした。

16:3 今、わたしはバアシャとその家を除き去り、あなたの家をネバテの子ヤロブアムの家のようになる。

16:4 バアシャに属する者で、町で死ぬ者は犬がこれを食らい、野で死ぬ者は空の鳥がこれを食らう。」

16:5 バアシャについてのその他の事柄、彼が行ったこと、その功績、それは『イスラエルの王の歴代誌』に確かに記されている。

16:6 バアシャは先祖とともに眠りにつき、ティルツァに葬られた。彼の子エラが代わって王となった。

16:7 【主】のことばはまた、ハナニの子、預言者エファーを通してバアシャとその家に向けられた。それは、彼が【主】の目に悪であるすべてのことを行い、その手のわざによって主の怒りを引き起こしてヤロブアムの家のようになり、また彼がヤロブアムを打ち殺した



からである。

16:8 ユダの王アサの第二十六年に、バアシャの子エラがティルツァでイスラエルの王となった。治世は二年であった。

16:9 彼がティルツァにいて、ティルツァの宮廷長官アルツァの家で酒を飲んで酔っていたとき、彼の家来で、戦車隊の半分の長であるジムリが彼に謀反を企てた。

16:10 ユダの王アサの第二十七年に、ジムリが入って来てエラを打ち殺し、彼に代わって王となった。

16:11 ジムリは王となり王座に就くと、すぐにバアシャの全家を討ち、小童から親類、友人に至るまで、一人も残さなかった。

16:12 こうして、ジムリはバアシャの全家を根絶やしにした。預言者エファーを通してバアシャに言われた【主】のことばのとおりであった。

16:13 これは、バアシャのすべての罪とその子エラの罪のゆえであり、彼らが罪を犯し、また彼らがイスラエルに罪を犯させ、彼らの空しい神々によってイスラエルの神、【主】の怒りを引き起こしたためである。

16:14 エラについてのその他の事柄、彼が行ったすべてのこと、それは『イスラエルの王の歴代誌』に確かに記されている。

ヤロブアムはソロモンの家臣でしたが謀反によって北王国の王となり、その子ナダルともに主に反逆しました。彼らへの報いとしてバシヤが用いられ、ナダルと殺して王となりました。しかしその子エラともに主に反逆し、ジムリの謀反で滅ぼされました。

結局主に背く者は報いを受けなければなりません。また主に用いられたからといっても、それで安泰なのではなく、またさばかれることがあるの

です。誰かの悪いところを批判は正することで主に認められるのではなく、自分自身が主に従うことこそが重要です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

